

平成27年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

(平成27年度対象・ダイジェスト版)



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長
～1年ごとの満喫～

平成28年12月

府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

- 1 事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組みです。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できます。

- 2 点検・評価の対象となる事業

第3次府中市長期総合計画の第3期実施計画内の事業で、教育委員会の主要な事務事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とします。

- 3 対象となる期間

平成27年度とします。

- 4 点検・評価の実施方法

- (1)教育委員会における点検・評価

事務事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施します。

- (2)学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行います。

学識経験を有する者として、前府中市教育委員会教育委員 神田純治氏に御意見をいただきます。

- 5 評価方法

事務事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行います。

II 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されています。平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により教育委員会制度の抜本的な改革が行われ、平成27年10月1日に教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置しました。

平成28年3月31日現在

職名	氏名	任期	
教育長	平谷昭彦	平成27年10月1日～ 平成30年9月30日	2期目
委員長職務代理	田中幸夫	平成25年10月1日～ 平成29年9月30日	2期目
委員	井上博昭	平成24年12月19日～ 平成28年12月18日	1期目
委員	骨田るり子	平成24年12月19日～ 平成28年12月18日	1期目
委員	古川一雄	平成27年7月3日～ 平成31年7月2日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など平成27年度は、18回の教育委員会会議を開催し、53議案について審議しました。

Ⅲ 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教委総務課関係

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
通学バス運行業務委託事業	現状維持	現状維持	
学校給食調理、配送及び洗浄委託事業	事業改善	事業改善	
学校給食センター設備及び厨房機器・器具修理事業	事業改善	事業改善	
備後国府跡確認・整備・活用事業	目的拡大	目的拡大	

ii 学校教育課関係

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
外国語指導助手招致事業	目的拡大	目的拡大	
キャリア教育推進事業	現状維持	現状維持	
適応指導教室	現状維持	現状維持	
小中一貫教育推進事業	目的拡大	目的拡大	
学校・図書館教育推進事業	現状維持	現状維持	
不審者情報等配信事業	現状維持	現状維持	
放課後児童クラブ推進事業	事業改善	事業改善	

iii 生涯学習課関係

事務事業名	1次評価	2次評価	備考
府中市文化センターや公民館を中心とした芸術文化活動の振興	事業改善	事業改善	
府中市生涯学習まちづくり出前講座	事業改善	事業改善	
府中市生涯学習センター活用推進事業	事業改善	事業改善	
下川辺・南・府中・龍田・西・岩谷・栗生・上下公民館整備事業	事業改善	事業改善	
地域の人材を生かした学習機会の充実	事業改善	事業改善	
スポーツグループ・スポーツリーダー育成事業	目的拡大	目的拡大	
府中学びフェスタ	事業改善	事業改善	

iv 外部有識者による評価

1 教委総務課関係

- (1) 学校の統廃合により通学バスの運行や路線バスの利用がなされており、安全・安心・確実に運行されることは、大切な教育条件と考えられる。

児童生徒の通学については、交通ルールを学び、また、徒歩や自転車により体力を培い養う時間とも考えられる。バス停までの可能な範囲での徒歩利用も取り入れるなどして、学校、家庭、地域が児童生徒を見守るなかでの運行が望ましい姿であり、関係機関との密な連携と、保護者などの理解と協力とにより、児童生徒にとって適切な対応を望む。

- (2) 府中市では、小中学校全児童生徒にセンター方式により完全給食が実施されており、栄養面の充実や食育指導も出来、児童生徒の心身の発達上好ましい状況である。また、地産地消率の向上の取組の推進により、学校給食を通して、活動の源となる食の大切さを学ぶことができる。これは、安定的に給食が実施されることが前提となっており、給食センターの設備厨房機器の点検・修繕が定期的に行われていることによる。施設の老朽化を考慮し、計画的な修理・点検により、安全・安心で、給食に携わる全ての人の心が込められた学校給食を、次世代を担う児童生徒に届けてほしい。

- (3) 平成28年10月、備後国府跡が府中市初の国史跡指定となった。30年を越える長きにわたる調査を経ての国史跡指定である。しかし、これからが大切である。備後国府跡を中心とした府中市の埋蔵文化財の発掘調査、整理調査、出土品の収蔵・展示、普及・研究活動はもとより、埋蔵文化財保護という分野にとらわれず、国指定の史跡となった備後国府跡を含め、府中市民が府中市を大切に、誇りに思うようなまちづくりにつながる取組が必要である。

2 学校教育課関係

- (1) 府中市でも、英語教育に力を注ぐ施策方針が示されており、身近に外国語に親しみ、国際理解を促進するためには、直接外国語に触れることが何よりの近道である。外国語指導助手（ALT）による指導は、仲間と一緒に楽しみながらネイティブな外国語に接することができる。また、ものづくりの町・府中市の企業でも、海外への販路拡大や生産もあり、海外で働き生活したことのある方も大勢いらっしゃるであろう。

ALTを増員し、その活動の場を広げることにより、外国語に触れる機会を増やすこともできる。また、ALTと同様の活動をすることのできる地域の人材発掘を加速させていくことも必要ではなかろうか。

グローバル社会は私たちのすぐそばに広がっている。

- (2) 市内中学校2年生全員を対象に、事業所の協力のもと継続実施されているキャリア教育。社会の中で初めて「働く」ことは、第三者から評価される初めての

機会でもある。自己評価と第三者評価との差異に驚く生徒もいたことだろう。

この職場体験の貴重さは、受け入れてくださる事業所の真摯な対応によって経験できるものであり、府中市の事業所の志の高さに感服する。キャリア教育の目標達成のために、事前事後の取組みも含め、今後も、一層の内容充実を期待している。

- (3) 適応指導教室は、不登校児童生徒が自分の居場所を確認することのできる「背伸びをしなくても良い」場所である。通室児童生徒の学校復帰と社会的自立の支援が目的であるが、指導教室と学校・家庭とが通室生徒児童に寄り添い、細やかに対応し、学校復帰につながる自信を取り戻す手伝いをするまでである。

全ての児童生徒が心豊かに成長していけるよう支援を継続してほしい。

- (4) 府中市が全国に先駆けて取り組んだ小中一貫教育は、13年目となった。この間、小中一体型校舎の整備に始まり、市内全域の小中一貫教育の実施、乗り入れ授業などによる「中一ギャップ」の解消、さまざまな可能性に挑戦し、府中スタイルの小中一貫教育を形作ってきた。更には、コミュニティ・スクールの推進・導入により、地域を巻き込んだ、地域ごとの特色ある活動が見られるようになった。自ら発信するまでもなく、全国からの注目は続いている。

一体、府中市の小中一貫教育はどこまで進化していくのだろうか。非常に楽しみであるが、その視線の先には、常に子どもたちの姿があることを忘れてはならない。

- (5) 学校図書室では、十分な予算措置が困難である中、図書室職員の知識と努力とにより、児童生徒の「本を読んでみよう」「図書室へ行ってみよう」という気持ちを醸成するような取組みがされている。子どもたちに限らず、活字離れが拡大する中、読書環境づくりは一筋縄にはいかないかも知れないが、推進を止めるわけにはいかない。我々大人が手本を示すことも大切である。
- (6) 放課後児童クラブの利用対象が3年生から6年生までに拡大された。施設的环境整備や指導員の増員もまだまだ必要なようだ。児童の生活指導や学習指導も必要になることから、専門的な知識を持つ指導員の適切な配置が望まれる。放課後児童クラブの役割と同時に、家庭の役割を考えることも忘れてはならないのではないだろうか。

3 生涯学習課関係

- (1) 芸術・文化活動の成果をはかるものとして、市美術展等への出品数や来場者数があると思うが、単純にこれらを増やすことを目的とするのは適切ではない。必要な取組みではあるが、芸術・文化の振興を図ることを主眼に置くべきであると考え。市美展、県美展等において専門性の高い作品を出品し鑑賞すること、地域の公民館等の活動や発表会を通して、創作の楽しみを知り、完成した作品を観賞すること。どちらも、芸術・文化の振興に寄与することは明らかであるが、後者について、地域の実践者が自発的にその魅力を発信できるような仕組

みづくりを構築していったらどうか。市民がともに集い楽しみ、心豊かな生活が送れる場が提供されることは、生涯学習の場として有意義であるとともに、芸術・文化へと続く最初のドアなのである。

- (2) まちづくり出前講座は、市民と行政が一体となってまちづくりを進めていくために、市職員が講師として市内に出向き実施している。前年度と比較し、講座の開設数をおおよそ倍増したことにより、受講者数もそれに比例した。誰でも簡単に取り組むことのできるニュースポーツ（ティーボール等）の普及を目的とした講座が好評であり、健康志向の高まりの中ますますの拡がりを期待する。
- (3) 府中市の生涯学習の中枢を担う施設と機能を併せ持つ生涯学習センターの活用については、まちづくり出前講座同様新たな要素を加えたり、普及浸透しているものを減少したりして、細やかなメニュー更新による魅力発信に努めていただきたい。
- (4) 公民館は、地域における学びの場として活用され、地域住民の信頼関係が培われている場である。災害時には防災拠点としてその役割を変えた際には、地域住民の信頼関係が自助・互助を促進する原動力となる。府中市にある公民館16館のほぼ全館の老朽化が進んでいるという事実を受け入れ、立地適正化の概念を持ちながら計画的に整備を行う必要がある。
- (5) 地域や住民による自発的な活動を促進・継続させるためには、社会教育団体やスポーツグループ・スポーツリーダーの育成は、その中心を担う人材育成として非常に重要な事業であると言える。新たな取組みのためのリーダー養成ではなく、既存の取組みがさらに広がったり、関わるグループ数が増えたりするような取組みも有効なのではないだろうか。
- (6) 11月1日を「府中教育の日」と定め、府中を担う子どもたちを育成するとともに、市民が自ら学び、地域社会の振興に主体的に参加する人づくりを進めるための大きな取組みとして、学校、団体、企業及び市民の皆様のご協力のもと開催しているのが「府中学びフェスタ」である。平成27年度で第5回の節目を迎え、府中市を代表するイベントのひとつとして、また市民の学びの場として成長してきた。参加者は、保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、公民館サークル、女性会、町内会、老人クラブ、NPO団体と幅広く、26年度からは企業からの協賛金もいただき、まさに市民で作り上げるイベントであると言える。先にも述べたが、細やかなプログラム更新による魅力発信に努め続け、地域や個人での日常の学びの集大成の場として誰もが「学びフェスタ」を目指すという、「生涯学習の頂」の役目を果たしてほしい。

V まとめ

府中市教育委員会では、事務事業評価制度を導入し7年目を終えたが、平成27年度の評価については、第3次府中市長期総合計画の第3期実施計画内の事業で、教育委員会の主要な18事業について点検・評価を行った。概ね妥当であるとの評価となったが、事業改善あるいは目的拡大、目的絞込等が必要な事業も見受けられた。ただ、事業改善については、新たな視点や企画を取り入れるといった積極的改善であり、事業継続の意味を確認しながら改善していくべきものであると評価した。

平成27年4月に60年ぶりに改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、府中市教育委員会は、平成27年10月から新たな教育委員会制度での運営となった。府中市総合教育会議の開催により、より多くの意見を聴取し、発信する機会を得たことにもなる。外部有識者からは、「市民の自発的な学びを促進させる仕組みづくり」について意見を頂いた。府中市の未来を見据え、外部有識者をはじめとする寄せられた貴重な意見を参考にし、府中市の「学ぶ」環境をブラッシュアップさせていきたい。